

感染症の登園基準

愛地友遊保育園

※完治証明書が必要な病気(医師の記入)

	病名	主な症状	登園に関して
1	水ぼうそう(水痘)	微熱、赤くかゆみの強い発疹。その後、半日から1日で、顔、口の中、胸、背中、手足、頭皮に広がる。	全ての発疹がかさぶたになるまで。
2	おたふくかぜ(流行性耳下腺炎)	発熱、耳下腺で炎症が起こり、耳の下からあごにかけて腫れと痛みが出る。	はれが発現した後5日を経過し、かつ全身状態がよくなるまで。
3	プール熱(咽頭結膜熱)アデノウイルス	高熱、喉のはれや痛みと同時に、結膜炎(目やに、目の痛み、充血など)が起こる。	症状が消えてから、2日経過するまで。
4	流行性角結膜(はやり目)アデノウイルス	充血と目やに、まぶたのはれや痛み、涙を流したりする。	症状が治まり、医師が認めたとき。
5	麻疹(はしか)	発症1日前から発しん出現後の4日後。	解熱後3日経過してから。
6	風しん	発しん出現の前7日から後7日間くらい。	発しんが消失してから。
7	結核	初期は、微熱・せき・たんが出るなどの、かぜと同じような症状。症状が進むと、胸痛・血たん・体重減少・倦怠感・食欲不振などが現れる。	医師により感染の恐れがないと認めるまで。
8	百日咳	抗菌薬を服用しない場合、咳出現後3週間を経過するまで。	特有の咳が消失するまで又は5日間の適正な抗菌生物製剤による治療を終了するまで。
9	腸管出血性大腸菌感染症(O157、O26、O111等)	激しい激痛。頻繁な水様性下痢、血便が出る。※少ない菌でも感染します。	症状が始まり、かつ、抗菌薬による治療が終了し、48時間をあけて連続2回の検便によっても菌陰性が確認されたもの。
10	急性出血性結膜炎	ウイルスが呼吸器から1~1週間、弁から数週間~数ヶ月排出されるまで。	医師により感染の恐れがないと認めるまで。
11	髄膜炎(無菌性・細菌性)	発熱や頭痛・おう吐の症状が起こり、首の硬直・けいれん・意識障害などの症状を起こす場合もある。	医師により感染の恐れがないと認めるまで。

※登園届が必要な病気(保護者の記入)

1	溶連菌感染症	高熱、のどの痛み、莓舌、おう吐や頭痛を起こすこともある。	抗生物質の服用を始めてから24時間経過するまで。 ※途中症状が治っても、医師の指示通り抗生物質は飲み続けること。
2	手足口病	手のひら、足の裏、口の中などに水ぼうや赤い発疹ができる。(発熱など)	解熱後1日以上経過し、食事を普通にたれるようになるまで。 ※症状によって、自宅療養をお願いする場合があります。
3	RSウイルス感染症	風邪に似た症状から始まり、やがてひどく咳きこんだりする。	症状が治まり、全身状態が良くなるまで。
4	ウイルス性胃腸炎(ノロ・ロタ・アデノウイルス等)	突然の嘔吐から始まり、同時またはやや遅れて下痢になる。下痢便は酸っぱいにおいがして、粘液が混じっていたり、白っぽかったりすることもある。発熱を伴い、尿の量が急激に減り、脱水症状を起こしやすくなる。	嘔吐、下痢等の症状が治まり、普段の食事が取れること。
5	突発性発疹	高熱、2~3日後に腹部を始めとして淡い赤色をした発疹が出る。	解熱後1日以上経過し、発疹の赤みが薄くなり元気になるまで。
6	帯状疱疹	体の片側に、痛みの強い赤い発しんが帯状に出る。 ※水ぼうそうに免疫のない子どもが感染者に接触すると、水ぼうそうを発症します。	すべての発しんが痂皮化してから。
7	伝染性紅斑(りんご病)	両方のほおや腕に斑点ができ、ほおがリンゴのように丸く赤くなる(紅斑)斑点は丸く、縁がやや盛り上がる。手足やおしりに発しんが現れ、しだいにくっついて、地図のようになる。1~2週間で消えて、ほおの色も戻る。	全身の状態が良いこと。
8	マイコプラズマ肺炎	風邪の症状に似ているが、乾いた咳が長引く。 ※子どもが感染した場合、重症化することがある。	症状によって医師と相談、認めたとき。
9	クループ(急性咽喉炎)	かぜのような症状が出る。声帯の周りがはれ、声がかすれる。イヌが吠えるようなせきが出る。せきがひどくなると、水分補給ができなくなる。息を吸うときに「ヒューヒュー」、吐くときに「ゼーゼー」という音がしたら、呼吸困難を起こす前兆。	咳の症状が消失し全体状態が良くなれば登園可能。
10	ヒトメタニューモウィルス	咳、鼻水、発熱などの症状が主にみられます。症状はRSウイルス感染症と似ています。多くの場合は上気道炎(喉や鼻の風邪)症状のみですが、0~5歳の乳幼児や高齢者に感染すると気管支炎や肺炎を起こしやすいです。	症状が治まり、全身状態が良くなるまで。
11	ヘルパンギーナ	39℃前後の発熱をして、のどの奥に小さな赤い水泡ができ、痛みのため食欲が落ちる。水泡が破れると、のどの痛みが増し、つばを飲み込むのもいやがり、脱水症状をこともある。	発熱や口腔内の水泡・潰瘍の影響がなく普段の食事がとれること。

※登園許可願いが必要な病気(経過記録を保護者が記入)

12	インフルエンザ	喉の痛み、咳、鼻水などの風邪の症状から始まり、40℃前後の高熱が出て、関節痛などの全身症状が出る。	発熱した後(発熱の翌日を1日目として)5日を経過し、かつ解熱した後3日を経過するまで。
13	コロナウイルス	発熱やせき、息切れなどで、一部の患者では腹痛や下痢などもみられるということです。心臓や肺の病気や高血圧、ぜんそくや糖尿病などの持病がある場合は、子どもでも重症化するリスクがあるということです。	発症した後5日を経過し、かつ、症状が軽快した後1日を経過すること。